

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	令和元年11月25日(月) 9:30~11:30
会 場	北広島市役所 3階 3D会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、武者加苗委員、天羽浩委員、谷本雄司委員、桂裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	川村企画財政部長、佐藤総合計画課長、橋本企画課長、小澤主査

1 開会

委員の全員が出席していることから、会議は成立していることを確認

2 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、天羽委員を令和元年度第5回推進委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3 議事

(1) 北広島市総合計画(第6次)素案等に係る審議

事務局：(説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【前回までの意見の反映について】

A委員：8ページ「(3)安全・安心」のところで、第4章「平和・人権尊重社会・男女共同参画の推進」を第6章の方に持っていくという話はどうなったか。

事務局：内部でも検討したが、現計画(第5次総合計画)で散らばっていたものをまとめた経緯もあり、第3章のままとさせていただいた。

【教員の働き方改革について】

A委員：23ページ【第2章第2節 学校教育環境の整備】の新たに加えた基本的方向の部分で、「関係団体と連携し、教職員の長時間勤務の解消に向けた取組」とあるが、ここだけ具体的な内容であり違和感がある。働き方改革で様々な業務の見直し等を図ることが本当の目的であり、その結果として長時間勤務は減るかもしれないというものではないか。

事務局：表現方法を検討する。

【スポーツ振興について】

A委員：30ページ【第2章第5節 スポーツの振興】の施策に追加した「幼児期を含めた子どものスポーツに親しむ機会」とあるが、幼児期の具体的な時期は、幼稚園児か。

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

事務局：幼稚園児を含めた未就学児の時期から、まず親子でスポーツに親しんでもらいたいと考えている。

【ボールパーク等を通じた交流について】

A委員：74 ページ【第5章第6節 交流・多文化共生の推進】の施策で「姉妹都市交流事業の推進」とあり、ボールパークを通じた道内の各自治体との交流の推進等がこれから必要だと思い、前回発言したが、ここに具体的な記載がないように感じる。これから交流を推進していくのであれば、ボールパークによる道内の各自治体との交流を北広島市が中心になって進めていくという意味で重要ではないか。

事務局：78 ページ【第6章第2節 産学官連携の推進】の施策で、オール北海道ボールパーク連携協議会の広域連携として、連携という形で入れている。連携から交流につながる可能性はあり、最初から姉妹都市のような交流としてしまうとお互い構えてしまい、連携の中から派生して交流に発展していくという可能性を含んでいる。

【工業の振興について】

B委員：66 ページ【第5章第2節 工業の振興・企業誘致】の施策4の「新たな産業集積の推進」について、情報通信事業等とボールパークの2つの大きな文脈があるので、分けて表現してはどうか。65ページの現状と課題に即している施策なのであれば、66ページの施策の方にも65ページに書かれている5G(第5世代移動通信システム)の関係を具体的に入れながら説明した方がわかりやすいのではないか。情報通信事業等を具体的に膨らませて、素材産業や新エネルギー、航空宇宙、特に素材産業はナノカーボン等、北海道は未知の発展性があり、それらを加えていただければ、この情報通信事業等が膨らむかと思う。

また、施策3の「企業誘致の推進」に、「新たな工業団地の開発の可能性」と追加されたが、「新たな」という表現が抽象的であり、輪厚工業団地のような団地は先端産業系ではなく、既存の産業をそのままビルトインしている。そこに「新たな」と書くのであれば、相当異なる意味で、例えば「付加価値を創造」するなど書かないともったいない。施策4にも影響する。

事務局：施策4の文章のボールパークと情報通信事業の部分やその他の先端産業の件についても、どこまで具体的に書き込めるか、今後原案に向けて検討させていただく。

事務局：「新たな工業団地の開発の可能性」、この一文だけで非常に多くのことが含まれており、例えば市街化区域の拡大など、様々な部分に関わってくるものである。この一文を入れるだけでも各種打合せや検討等が発生し、やっとのことで書き込めたというものである。これをよりイメージ化させるように書くというのは現状では難しいかもしれない。具体的な記載になってしまうと、市の姿勢やアピールとしては良いが、その具体的な想定場所など、説明する必要が生じてくる。現状としては、具体的な場所が

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

想定されている訳ではなく、今後出てくるかもしれない、まちの利便性を生かした新たな開発の可能性を否定しないという意味で考えている。

C委員：「工業団地の開発の可能性」という言葉、この「の」が2つあるのは違和感があり、「新たな工業団地開発の可能性」、あるいは「新たな工業団地の開発、可能性」の方が良い。

事務局：変更する。

A委員：「新たな工業団地の開発の可能性」について、インフラ整備はお金がかかることだが、実現の可能性はあるのか。資金をかけなくても、例えば廃校を利用してIT産業を誘致する等、小さいところから始めても良いのではないか。

事務局：現在、工業団地では分譲する土地がほぼない状況だが、民間企業からの問い合わせは多い。新たな工業団地の造成は、数年ですぐにできるようなものではなく、今後実現できるかどうか企業のニーズ調査等も含め、開発の可能性の余地は残しておくべきだという位置付けで記載している。一方で、既存施設を使った情報通信系等の集積産業は、これまで市として取り組めておらず、その視点は、施策4で新たに設けた。新たな工業団地については、今後10年間で検討も何もしないということに対して、社会情勢の変化やボールパークの開業等から何が起こるかわからないということもあるため、開発の可能性について検討という記載にとどめており、具体的な場所等については言及していない。

【時代の潮流(人口減少等について)】

C委員：2ページ、「2 時代の潮流」の「(1) 人口減少、少子高齢化の進行」について、15歳から64歳までの生産年齢人口が減少し、現代の日本の労働力は、若い人が不足しており、女性や高齢者をどう使うかという方に意識が行っている。年金も65歳からの支給ではなく、70歳や75歳からの支給が検討されているというようなことまで記載できないか。

事務局：もっと広く時代の動き、世の中の動きを加えていきたい。

【公共施設について】

D委員：76ページ「西の里地区における公共施設」について、この計画自体は10年間適用され、ここだけかなり特定化した記載になっている。この10年での他の地区の建設予定等、短期的な話をどのくらい書いて良いのか。数年後のことは具体的に書けないというのであれば、抽象的な表現に留めておいた方が後々良いのではないか。

先程の教職員の長時間勤務についても同じ理由で違和感があり、確かに長時間勤務は最近問題になっているが、基本的方向のところを書かれていることに違和感があ

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

る。

事務局：西の里地区の公共施設については、市民からの要望等が強く、議会等でも議論されているところで、これまで市としての位置付けができていなかった部分であり、今回は具体的に書き込んでいるという状況である。他の地区との表現のバランスなどについては、検討したい。

(2) JR北広島駅西口の再開発について

事務局：(説明)

委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【各エリアの用途について】

A委員：基本的に住居系を予定しているC(福祉センター跡地)、D(市営駐車場)エリアは、市が民間と連携するというよりは売却するというイメージか。制限や条件はあるのか。

事務局：現在は市有地であるため、居住系の建物が見込めるC、Dエリアは売却し、駅前ロータリーを民間企業と連携して一体的に整備ができないかと考えている。

事務局：未利用市有地が全てマンションとなると、共倒れになってしまう危険性がある。A(駅前ロータリー、駅前公園)、B(芸術文化ホール臨時駐車場)、C(福祉センター跡地)、D(市営駐車場)全体として、どのような構想が良いかということ、今後つめていき、居住系が見込める土地はそこを種地として提供することにより資金を確保し、その資金を使って別の土地が完成していくというイメージである。現段階では、C、Dエリアは、住居しか活用する方法が見えないというのが民間企業の話だった。西口再開発に関して、パブリックコメントを12月15日から行う予定で、今日皆様の御意見も頂いたので、参考にしていきたい。

B委員：JR北広島駅西口エリアは、特にAとBが重要な拠点になってくる。Bの隣の北広公園は、頻繁に使われているわけではない。村や町るときは、駅前の一等地に公園があっても良かったが、これからの時代はそうはいかないのではないかと。また、Bエリアは、現在住居地域であるため、商業地域に変更して、北広公園の一部と併せて一体的な再整備により賑わいを持たせることが重要である。また、北広島駅、A、Bのエリアをスカイウェイ等で繋いだらとても良いのではないかと。

事務局：公園部分は、法規制等がありハードルは高い。A～Dの場所以外にも民間ビルの建物があり、市有地も含めて一体的にどうするかということを考えていく。また、土地・建物の所有者の意向だけでこの計画が走ると、その利用者等ハレーションも想定され

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

るので、まずエリアとして市が大きな考え方を示していく。行政側が土地収用法まで見越した、強制的に動けるようなことは現状想定しておらず、あくまでも民間事業者とその民地の所有者の協力によってつくり上げていく中に、公共が入るという方法を想定している。ただし、最後には費用の話になるため、その折り合いは、検討していく必要がある。

D委員：大学のサテライトキャンパスの話は出ていないのか。有効であると思う。こういう便利な場所であれば、大学生が地域の方との協働やボールパークを通じたプロジェクト等も実施しやすいと思う。

事務局：庁内的な職員間の意見交換の中では、大学のサテライト機能もどうかという話はあるが、今までそれを具体的に市として政策的に誘導するところまでは至っていない。地元の大学の場合、現在、すぐ近くの広葉交流センターの中にそういった機能もある。

事務局：そのような幅の広げ方をどうしていくかは、今後の課題である。多目的な交流スペースを設置すべきという視点は、持っている。

C委員：C、Dは住居、A、Bはボールパークへのアクセス拠点という位置付けで開発するとされているが、例えば札幌市内で考えたときに福住駅が既にあり、ドームができて駅周辺はそんなに変わったわけではないと思う。東京ドームや甲子園も、球場があるために大きな商業施設があるというわけではない。名古屋は駅から球場に真っ直ぐ入れるが、そのようなイメージか。

事務局：JR北広島駅前のロータリーに試合の前後で大勢の人が降りる時に、シャトルバスと一般車両とタクシーのオペレーションが現状のままでは全くできなくなるので、交通関係の広場をつくりかえるのが大きな目的になる。加えて、人の動線として動きが出てくるときに、点在している民間事業者の賑わいを集約し、交流できる場に建て替えることを検討しており、北広島駅とボールパークの1.5キロ区間を結ぶ入口にしようと考えている。通過型というよりも、行きも帰りも足を止めていただくような場をつくりたい。

C委員：駅前には、現状のロータリースペースしかなく、今後どのように整備するのかイメージが湧かない。また、グッズ売り場等も一般的には、球場の中にあり、駅からその間で買い物するというイメージがあまりない。

事務局：北広島市の反省点として、三井アウトレットパーク自体は、多くの人々が来ているが、そこで完結してそのまま帰ってしまっている。まちの周遊がなく、地元商業とは全く関係がない状況になっている。ボールパークもそうなることを一番懸念しており、駅とボールパークとの動線を繋ぐ仕掛けづくりのきっかけにしたい。だからといって、札

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

幌駅前デパートのようなイメージではないが、市民も、その都市機能を楽しむことができるようなものがないかと民間に聞いたところ、それなりにできるという話が出てきているので、実施すべきということで進めている。

福住駅周辺は、まちづくりとして札幌市がこのような形での位置付けをしていない状況の中で、札幌ドームと福住駅との動線だけを考えた結果、まちが何も変わらないということになったものとする。

C委員：札幌ドームは、試合の日、周辺が渋滞して駐車できない状況だが、ボールパークもそうなるだろうか。

事務局：札幌ドームについては、ドーム内に800台の駐車場と、今周辺に3,000台以上の民間駐車場ができてしまい、交通計画では成り立っていない状況だと思う。ボールパークでは、一般の方の送迎と、駅で降りた人達をどうやって運ぶか、歩行者とバスに乗車する人の動線分けを検討している。

A委員：JR北広島駅西口にある中央バスのビルとバス待機場を巻き込んで再開発できれば、全て繋がるし、良いのではないかと。時間がかかるかもしれないが。

事務局：西口の再開発に関し、全体の構想を持っている中に、住居と賑わいの場を分けなければ、共倒れになってしまう。全部分譲マンションだったら売れないことが懸念される。例えば1期、2期、3期、4期のように区切り、徐々に作り上げていくイメージであり、ボールパーク開業時に全てが整備されているというわけではない。最も優先順位が高いのは、交通の関係であり、しっかり整備する必要がある。

委員長：最近の再開発では、苗穂駅が参考になり、27階建てのマンションも空中ホールで繋がって、その先にイトーヨーカドー系列の建物に繋がる。あそこまで大きい商業施設が来るかどうかは別だが、一体的な再開発としては、とても参考になる。全体としての計画を練りながら進めていかないと、虫食いの再開発になってしまう。一体的にできるかどうかポイントである。

(3) ボールパークに係るアメリカ視察の報告

事務局：(報告)

4 その他

事務局：次回は令和2年1月22日15時からの開催、フォーラムは同年3月10日18時からを予定している。

令和元年度第5回北広島市総合計画推進委員会 会議録

5 閉会

委員長：(閉会)

会議録署名委員
